

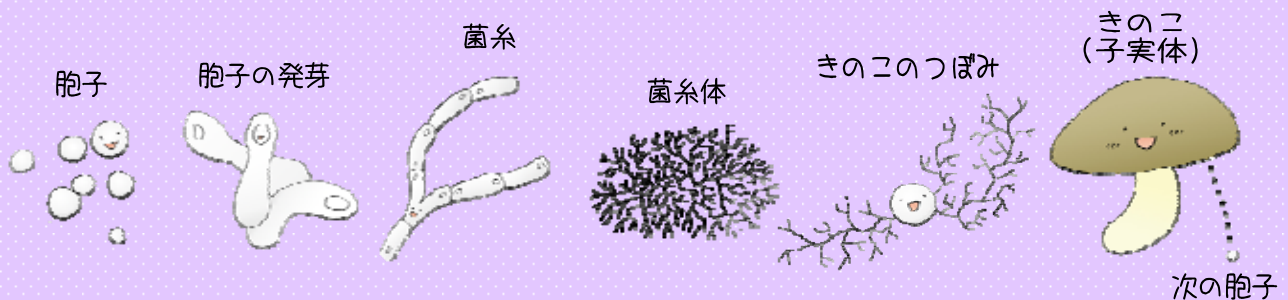
# きのことはどんな生き物？

## きのこは菌類で動植物とは異なる生物

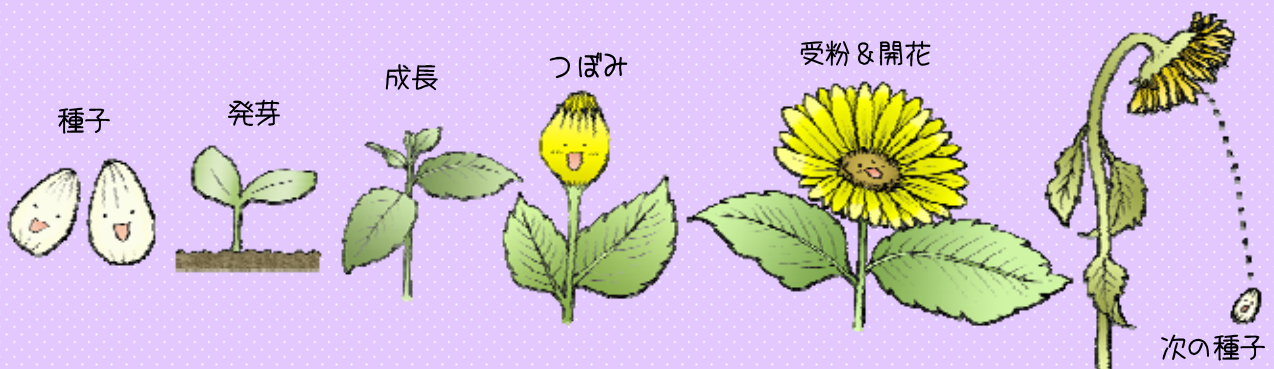
これまで、菌類は葉緑素を持たない下等植物といわれておりましたが、近年、菌類は植物でも動物でもない第3の生物と考えられています。

きのこは、菌類の一種の「カビ」の仲間です。カビは、菌糸と呼ばれる糸状の細胞の形で生活しますが、この菌糸が成熟すると孢子（植物では種にあたる）をつくって繁殖します。その孢子をつくる子実体が目に見える大きさのものを「きのこ」といいます。

また、きのこは植物の枯れた葉や木、動物のフンや死骸など、いらなくなったものを食べて分解してくれます。なので、きのこは「森の掃除屋さん」ともいえます。



### きのこの一生



### 植物の一生

# きのこは3つのタイプに分けられる

葉緑素を持つ植物は、太陽の光を受けて自分の体をつくって生活しますが、葉緑素をもたない菌類は、動物と同じように植物のつくった有機物を養分にして生活します。したがって、菌類は栄養分をどのような物からとるかによって、腐生菌、木材腐朽菌、菌根菌の3つのタイプに分けられ、発生するきのこの種類も違ってきます。



## 腐生菌

落ち葉や木の実、枯れ草、ワラ、動物の排泄物や死骸などから養分を吸収し、これを分解するきのこ菌。

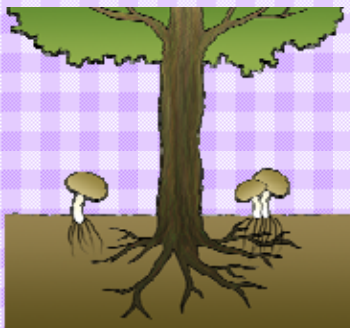
ササクレヒトヨタケ、ハタケシメジ、アミガサタケ、ムラサキシメジ、ツクリタケ（マツシユルム）など。



## 木材腐朽菌

生木の傷ついた部位や立ち枯れ木の幹や枝、倒木、切り株、根株等に発生し、これを分解するきのこ菌。

シイタケ、ナメコ、マイタケ、エノキタケ、タモギタケ、ヒラタケ、キクラゲ、ブナシメジ、クリタケなど。



## 菌根菌

生きている木の根っこに菌根（外生菌根）をつくり、木からは糖分を吸収すると同時に、土から吸収した水分やチッソ、リンサンなどを木に供給する。また、木の根は土中の病原菌に侵されるのを防ぐ役割も果たしており、木と共同生活を営むきのこ菌。きのこは地表に発生するが、地中の根につながっている。

マツタケ、ホンシメジ、ハツタケ、チチタケ、イガ子類など。

# 自然のなかのきのこのこの役割



生物は大きく「植物」「動物」「菌類」に分けられます。  
植物は細胞の中にある葉緑素が、二酸化炭素と水を原料に、太陽の光を使って、養分を作ります。これを光合成といいます。植物だけが自分で栄養を作れるのです。  
動物は植物から栄養を取り、酸素を吸って生きています。ワシなどの肉食動物も、ウサギなどの草食動物を食べることで、植物の栄養をもらっています。  
そして、植物の枯れた葉や木、動物のフンや死がいなど、要らなくなったものを食べて分解しているのが、「きのこを含む菌類」なのです。モノが腐るのは、菌類が食事をしている姿で、汚いように見えるかもしれませんが、実は、自然を掃除してくれているのです。「きのこは森のそうじやさん」なのです。